「新しい啓示」
使徒言行録 10：9－23a

　コルネリウスが天使を見た翌日、三人の使者が、ペトロが滞在しているヤッファの家までやってきました。ペトロは祈るため屋上に上がっていました。その祈りの最中、ペトロは神さまから不思議な幻を見させられました。それは天から大きな布のような入れ物が、四隅でつるされて地上に降りてくる幻です。そしてその中には、地上のあらゆる獣や、地を這うものや、空の鳥が入っていました。それからペトロに声が聞こえてきました。「ペトロよ、身を起こし、屠って食べなさい」と。しかし、ペトロはこう言うのです。「主よ、とんでもないことです。清くない物、汚れた物は何一つ食べたことがありません。」
　ここに入っていた動物たちは、神さまが食べることを禁止していた動物たちでした。旧約聖書のレビ記 11 章には、動物や鳥や、魚の中で、食べてよいものと、食べてはならないものが詳しく定められています。
　では、なぜ、神さまはそのような掟を定められたのでしょうか。それは、イスラエルに「聖別」を教えるためです。そこには、神さまが食べて良いものと食べてはならないものを区別したと書かれています。これはイスラエル人が神さまから聖別された民であるということを忘れないため、あるいは聖別された民であることを証しするための印なのです。イスラエルの民は、数多くある国から特別に取り分けられた、つまり聖別されたのです。そして彼らは罪の奴隷だった状態から聖別されたのです。その聖別された民であることを忘れないために、神さまはイスラエルにのみルールを与えられました。それが律法です。この律法を守ることで彼らは聖別された民として自分たちの与えられている祝福を見失わないで生きることが出来るのです。だから、これらの動物を食べたら神さまに対して罪を犯すことになるのです。

　ところが、それを神さまご自身が「屠って食べろ」と言われたのです。このとき、ペトロは「主よ、とんでもないことです。清くない物、汚れた物は何一つ食べたことがありません。」と言っています。これは、言うなればペトロの信仰告白です。ここでのペトロには、一切不信仰はありません。けれども、こういうことが三度繰り返されたと記されています。
　この「三度」という言葉に、皆さんも何か思い起こされていることがあるかと思います。ペトロの経験には、「３」という数字が出てきます。最初に思い浮かぶことは、イエスさまが捕らえられた時、鶏が鳴く前にイエスさまのことを三度も知らないと言ってしまったあの大祭司の庭での出来事です。次に思い出すのが、復活されたイエスさまとガリラヤ湖畔で出会った時、イエスさまから「わたしを愛しているか」と三回問われた場面です。それから今日の場面です。これらの出来事は、いずれもペトロが大きく変えられる出来事でした。そして、この幻の出来事を通して、ペトロは神さまからの新しい啓示に気づかされていくのです。
　“あの大きな布の中の汚れた物とは、異邦人のことだったのだ。それを神さまご自身が、清くしたと言われたのだ。だから、神さまが清めた物を、清くないなどと言ってはいけない。同じように、異邦人も神さまによって清くされ、イエス・キリストの救いに与ることができるのだ。”
　主イエス・キリストの救いは、ただ神さまの恵みによって与えられる。キリストの十字架の血潮によって、すべてのものが清められている。この恵みの前には、ユダヤ人も異邦人も関係ない。そのことを、ペトロは示されたのです。

この出来事は、ヤッファという町で起こったことでした。ヤッファの町と聞くと、旧約聖書のヨナ書を思い出します。ヨナは神さまからニネベに行って神の言葉を語りなさいという召命を受けます。しかしヨナは、異邦人のニネベには行きたくなかった。それでヤッファから船に乗って、反対方向のタルシシュに逃げようとしました。そして今、ペトロは、そのヤッファから異邦人伝道へと歩み出すよう召命を受けているのです。おそらく、今日のこの幻を見ていなければ、ペトロもヨナと同じ選択をしてしまっていたかもしれません。ペトロが、これまで異邦人に対して心の中に築き上げてきた壁や、体に染みついてしまった思いは、神の働きかけ、聖霊の導きによって打ち壊されていきました。それによってペトロは変えられたのです。

ともすると私たちは、伝道というのは、キリストを宣べ伝えて、聞いた相手を変えようとすることだと思っているかもしれません。けれども今日、そうではないことを教えられます。それよりも大切なことは、「私が変えられる」ことです。自分がまずキリストの福音によってふさわしく変えられることです。

皮なめし職人シモンの家には、ペトロと、コルネリウスの三人の使いが客人として泊まりました。異邦人の僕、ローマの兵卒、そしてキリストの使徒であるペトロ。つい先程までは、交わることを避けていたお互いでした。しかし今は、主イエスの十字架の愛に促されて、共に食事をし、同じ部屋で一夜の宿を取っているのです。

私たちの周りにも、あらゆる分断が横たわっています。ヘイトスピーチやヘイトクライムも横行しています。でも、もし、そこに愛と和解の主ご自身がおられるなら、私たちは愛の律法に生きることができます。主イエスが隔ての壁を打ち壊し、十字架を通して私たちを一つの体としてくださいます。お互いが、罪赦され、清められた者同士として受け入れ合うことができます。

私たちも今日、この霊的ヤッファから主の導きを求めつつ、新たな歩みを進めてまいりたいと願います。